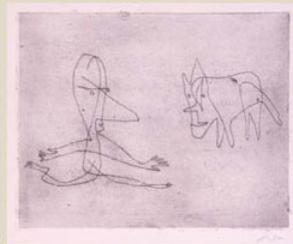


サマーミュージアム 動物たちをさがそう



販売店：（国産品）（日本産）
100% 動物園

Collection Exhibition
Summer Museum: Searching for Animals



広島県立美術館
夏の所蔵作品展

2017(平成29)年

7月5日[水]—9月10日[日] 2階 展示室

開館時間：9:00 - 17:00

※ 金曜日は20:00まで開館

※ 入館は閉館の30分前まで

休館日：月曜日 ※特別展会期中・祝日・振替休日を除く

※8月21日は、展示替のため所蔵作品展は閉室

入館料：一般 510(410)円、大学生 310(250)円、高校生以下無料

縮景園との共通券：一般 610円、大学生350円

※()内は20名以上の団体



- JR広島駅より約1km
- 広島城より約400m
- 市内電車(「八丁堀」で乗り換え)白島線で「縮景園前」下車20m
- ひろしまめいぶる〜ぶ(市内循環バス、JR広島駅新幹線口のりば発着)「県立美術館前」下車(白島線沿い)



広島県立美術館

Hiroshima Prefectural Art Museum

【概要】

夏の所蔵作品展 サマーミュージアム 動物たちをさがそう

1968(昭和43)年に開館した広島県立美術館は、1996(平成8)年に現在の建物に生まれ変わり、来年は開館50周年の節目を迎えようとしています。

開館以来、多くの皆さまからご寄贈などのご協力を得て、現在のコレクション総数は約5,000点。収集重点方針として「広島県ゆかりの美術」「1920-30年代の美術」「日本及びアジアの工芸」を掲げ、とくに近代絵画と工芸作品が充実しています。

今年度の所蔵作品展は、コレクションを様々な角度から捉えた企画をとり揃え、4期に分けて開催いたします。今期は特別展「ひつじのショーン展」に関連し、「動物」をキーワードにさまざまな作品をご紹介します。三沢厚彦の木彫による動物表現から、サルバドール・ダリ《ヴィーナスの夢》や山路商《犬とかたつむり》のような不思議な画面に描かれた動物たち、耳を傾ければ鳴き声まで聞こえてきそうな日本画や動物をモチーフにした工芸など、当館所蔵作品をいつもと違った角度から見つめていただけることでしょう。また、各所に仕掛けられたミニワークショップもお楽しみください。

何度でも見たい、と言っていただけの展示をめざし、職員一同、今後も努力を重ねていくことで、美術館を支えてくださる皆さま方への感謝の気持ちを表してまいります。残る秋、冬の所蔵作品展もどうぞお楽しみに。

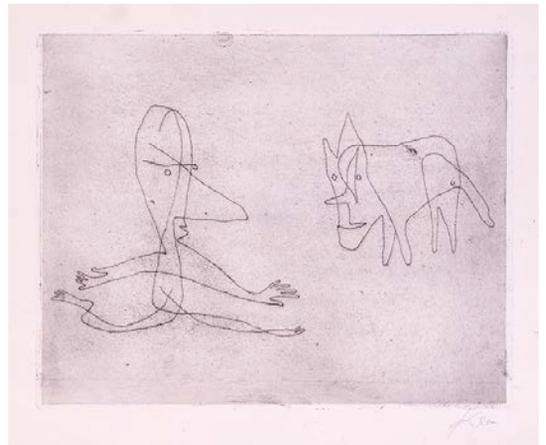
【内容】

イメージの中の動物

この展示室では、当館の収集方針の一つ「1920～30年代の美術作品」から西洋の絵画や彫刻、動物を描いた作品をご紹介します。

無意識の世界を表現したシュルレアリスムの代表的作家、サルバドール・ダリの作品《ヴィーナスの夢》には燃えるキリンやロブスターといった生き物が描かれています。どちらもダリの作品にたびたび現れる図像で、燃えるキリンは「黙示録的な怪物」という不穏な意味を有しています。また、ロブスターはダリの好物の一つで、硬い殻の中に柔らかい肉質が秘められていることに、ダリは興味を持ったといいます。こうした生きものの図像に、作者は特別な思い入れや愛着をこめたのかもしれませんが。

ほかにも、バウハウスで教鞭をとったパウル・クレーやゲルハルト・マルクスらが描いた動物や、アリストテード・マイヨールが描いた人と動物が共生する牧歌的な風景、マックス・エルンストが作り出した不思議な生物などを展覧します。15名の作家たちによる多様な表現をお楽しみください。



パウル・クレー 《何で走っているのだろう》
1932年 エッチング・紙

日本洋画

この展示室では、油彩、水彩、版画など様々な材質や技法で表現された動物のいる作品をご紹介します。

まず、動物が「主役」の油絵では、須田国太郎や山路商らの力強い表現が見どころです。絵具の塗り重ねや削り落としにより、動物は存在感を強め、ダイナミックに描かれます。対照的に、小林徳三郎の室内風景や寺田政明の《二つの道》は、小さく描かれた生きものが味わい深く印象に残る作品。ヨーロッパやインドを旅した南薫造は、異国の風景に溶け込んだ動物をみずみずしい水彩で表現しました。

素描では、鬚光のユニークな作品をご紹介します。油絵だけでなく墨と筆の仕事にも秀でていた鬚光は、牛やかぶと虫を今にも動き出しそうに生き生きと表現しました。

さらに、戦後の版画作品として、鮮やかな色彩が特色の水船六洲や、動物のイメージを含む十二星座をデザイン性も高く表現した菅井汲の作品もあわせて展示。多様な表現から生まれた作品は、動物たちがいかに人々の生活に深く関わり、また作家の創作意欲をかきたてたのかを私たちに改めて伝えてくれることと思います。

日本画

この展示室では、日本画に描かれた様々な動物を紹介します。展示作品をご覧いただくと、霊的なイメージを持つ龍や虎、人々の生活と共存してきた猫や牛、あるいは山野に飛来する様々な鳥などが描かれています。

動物といっても、空想上の存在である龍や日本では生息していなかった虎をはじめとして、当然見ることのできないモチーフもありましたから、想像の中で作り上げられたイメージも重要でした。そこで用いられたのが絵手本です。絵手本をもとに作品を描いた昔の画家は、実際にモチーフを見ることなく描くことができました。

しかし、そのように描かれた動物たちは、必ずしも実際の特徴を捉えたものではありません。この反省から、次第に絵手本を離れる画家も増えて、写生いわゆるスケッチを重視するようになると、自分の目で見て動物を描くようになります。

空想上の動物や、人間の生活と共存した動物、自然の中で自由に生きる動物など、描かれる対象はさまざま。また、同じ動物を描いた作品であっても、画家たちの向き合い方の違いをみることができるでしょう。



吉原英雄 《版画集『ペットショップ』より 蟻の観察》
1979年 メゾチント・エッチング・紙



和高節二 《ひなた》1955年 紙本彩色

工芸作品の動物たち

「動物たちをさがそう」のテーマで工芸作品を見わたすと…。

いたいた、様々な動物たちが。猫や馬、鳥、小さな昆虫、魚や貝そして爬虫類など実在する動物から、さらに鳳凰や獅子、龍、有翼獣など空想上の動物たちまで。

また、アジアの工芸作品をコレクションの大きな特色の一つとする当館として、「動物」というテーマの下に、まず、馬や羊など動物たちと生活を共にしてきたトルクメン人(中央アジアの遊牧騎馬民族)のアクセサリーや馬具などが浮かびあがります。そして、複雑な文様に多くの動物が織り込まれたイスラム金工品、晴れやかな狩猟の情景を描いたインド更紗、生きものの気配を感じさせる楽園のような花畑を表したウズベキスタンの刺繍布、などなど。

工芸作品は人々の生活の身近にある美術作品。工芸作品の中に動物のモチーフを取り入れることで、人々はどんな思いや願いをこめてきたのでしょうか。そして、日本とアジアの工芸作品に見られる、人々と動物とのさまざまな関わりに触れてみましょう。



清水南山 《猫金具付 小児用手提》
1939年 銀・彫金・布



《伊万里柿右衛門様式色絵馬》
17世紀後半 磁器 色絵

友の会ボランティアガイド

当館友の会ボランティアガイドが所蔵作品展についてわかりやすく解説します。

日時: 平日14:00~/土日祝11:00~、14:00~(1時間程度)

場所: 2階 展示室

参加料: 無料

※要入館券(高校生以下無料)、申込不要

※12/26~1/4は休み。

【媒体掲載用の画像提供について】

※いかなる場合も本プレスリリースからの転用はご遠慮ください。

※都合により出品作品が異なる場合がございます。ご了承ください。

※画像については提供が可能です。ご掲載の際に画像がご入り用の場合は、当館までお問い合わせください。

※画像掲載の際には、画像とテキストが掲載されたレイアウト原稿を事前に当館までご提出いただき、1週間程度お時間を頂戴いたします。ご了承ください。

問い合わせ先

広島県立美術館

〒730-0014 広島市中区上幟町2-22

TEL.082-221-6246 FAX.082-223-1444

E-mail m-kaminishis4677@pref.hiroshima.lg (上西宛)

担当 学芸課 藤崎 綾

総務課 広報担当 上西 真由美 一色 直香